

2023年7月28日伊吹山で観察した植物

作：岡田 弘

カワラナデシコ（河原撫子）ナデシコ科ナデシコ属・別名ヤマトナデシコ

名前の由来＝主に河原に生えているので、撫でるように可愛いと言う意味が込められている
秋の七草の一つで、古くから人気があり、万葉集には数多く詠まれほか、枕草子や一茶の俳句にも登場する、日本原産の多年草で本州、四国、九州に分布、茎の上部で枝分かれして、その先端に花を付ける、花弁の先は細かく刻まれている、葉は細くて長い、茎を抱くようにしている、葉柄は無い、別名のヤマトナデシコは同属のカラナデシコと区別するのに用いた漢方薬として瞿麦（クバク）と称して主に泌尿系疾患に用いられる ***花言葉**＝可憐・大胆、他 ***花期**＝7～10月



キオン（黄菀）キク科キオン属、*花期＝8～9月

名前の由来＝紫の花が咲くシオン（紫菀）に対して黄色の花が咲くことからキオン（黄菀）
伊吹山でも鹿が食べないので群生していた、食べると猛烈な下痢症状を起こす様だ、だが含まれている成分を抽出して、男性の滋養強壮剤が作られているようです、在来種で本州～九州に分布、茎は直立して葉は互生、花は径約2cm多数、***花言葉**＝元氣・陽気



イブキジャコウソウ（伊吹麝香草）シソ科イブキジャコウソウ属*花期6～7月

名前の由来＝伊吹山の石灰岩が露出して日当たりの良い地帯に多く自生して、麝香の香りがすることから、葉を揉むと強い香りが漂う、別名、百里香、香りが百里の遠くまで届くと言う意味、ゾウ（草）と付いているが草ではなく木です、木の中では一番の矮性と言えます。茎は地上を這って延び絨毯を敷いたように群落を作る、葉は対生で花は唇形です。全草に薬効があり煎じて飲むと発汗作用があり、風邪に効果があるようです。**花言葉**＝勇気・神聖、他



ヒメフウロウ（姫風露）フウロソウ科フウロソウ属*花期＝5～8月

名前の由来＝400種類ほどあるフウロソウ属の中でも、花が小さく可愛いことから「姫」となった。ではフウロとわ？ははっきりしていません、一説では、風呂から来ているとされ、風呂は4方向で一つの穴が開いている、古来、田に繋がる草刈り場は1か所開いていた、これをフウロ野と呼ばれており、そこに良く生えていた草をフウロソウと呼ばれるようになった。ヒメフウロの匂いを塩を焼く匂いと似ているところから、シオヤキノウと言う別名がある、また、薬効があり、医者泣かせの秘薬として重宝されていた主に、リュウマチ、風邪、腫瘍。に煎じて服用。犬、蛇に噛まれた時には潰して塗布した、花弁は5枚で紫に近いピンク色の筋が2本入っている、茎は細く上部で枝分かれ、葉は人参の葉に似ている、***花言葉**＝静かな人・人知れずの愛



シモツケソウ（下野草）バラ科シモツケソウ属*花期＝7～8月

名前の由来＝「下野」（栃木県の古名）で多く見られたことに由来、シモツケと言う木があるが花が似ているのでシモツケソウとなった。葉はモミジに似て5裂している、木のシモツケは単葉で互生です、日本の固有種で多年草の植物、各地に自生していたが鹿が好んで食べてしまうので自生地帯は減少している、伊吹山の25年前は登山口の西コースから登ると直ぐ、シモツケソウのピンク色に山全体が染まっていましたが、今では網に囲まれている場所のみになった、***花言葉**＝控えめな可愛らしさ・純情・穏やかさ



メタカラコウ（雌宝香）キク科メタカラコウ属 *花期6～9月

名前の由来＝根の香りが竜脳香に似て、花の付き方が優しい感じから「雌」を付けてメタカラコウになった。（現代で名を付ければ逆では？）長い花径を延ばして黄色の花をまばらに付ける花びら（舌状花）が1～3枚、中央の筒状花が6～11個で全体がオタカラコウより寂しい、葉は長い葉柄を出して長さ20～25cmの矢じり形で3枚ほど出す。**花言葉**＝私に触らないで・美しい盛り



サラシナショウマ（晒菜升麻）キンポウゲ科サラシナショウマ属

名前の由来＝若芽えお山菜として湯がいて水に晒したことから「晒菜」となり、「升麻」は根茎を生薬として、解毒。解熱剤として使われたので。原産地、日本多年草、北海道～九州まで分布、毎年根茎から1本茎を出して上部に白い毛が生えます茎葉は互生3回3出複葉、花はブラシ状、***花言葉**＝愛嬌・無邪気、等、花期＝8～10月

